3 肥満とT細胞老化

Visceral obesity is associated with immunosenescence

佐野　元昭
Motoaki Sano
慶應義塾大学医学部循環器内科

Key Words
■ 内臓脂肪
■ 肥満
■ 免疫老化
■ 糖尿病
■ オステオポンチン

Summary

Belly fat is more than just ugly. It triggers lifestyle-related diseases and hastens death. Resistance to infection is lowered and risk of developing cancer, autoimmune disease, dementia is increased. These changes are common in older adults. Visceral obesity is associated with the same risk as in older individuals. We focused on the aging of the immune system and tried to elucidate the mechanism behind “Obesity accelerates the signs of aging”.

佐野　元昭
慶應義塾大学医学部循環器内科准教授
1996年 慶應義塾大学医学部内科学助手，2000～2006年 Baylor 医科大学循環器内科留学（Michael D. Schneider 教授），2005年 慶應義塾大学医学部坂口光洋記念講座再生医学助手，2009年 慶應義塾大学医学部循環器内科講師，2010年 同 副部長，2013年 同 准教授。
msano@a8.keio.jp

肥満と免疫老化

おなかぽっこり体型の代名詞になった「メタボ」，すなわちメタボリックシンドロームは，見た目のかっこ悪さを警告しているのではない。おなかについた「内臓脂肪」がさまざまな生活習慣病の引き金となり，死を早めてしまうことが問題となっている。それだけではなく，メタボは感染に対する抵抗力が低下する，がんや自己免疫疾患，認知症の発症リスクが高まるなど，さまざまな異常をきたす。メタボに起因するこれらの体調の変化は，高齢者の特徴でもある。したがって，メタボが老化の徴候を加速させている可能性が指摘されてきた。我々は，私たちの体を外敵から守る免疫システムの老化現象に着目し，メタボが老化の徴候を加速させている仕組みを解明しようとしている。

内臓脂肪はなぜ悪い？

私たちの体は，食べ物から摂ったエネルギーを使いきれなかったとき，それを脂肪に換えて体に蓄え，必要なときにもう一度エネルギーに換えて使うことができる。進化の過程で厳しい生存競争を勝ち抜くために，なくてはならなかった素晴らしいシステムだが，美味しいものがあふれ，それほど体を動かさなくても暮らしていける現代では，皮肉にも脂肪の溜め込みすぎが問題となっている。

皮下脂肪と比べ，内臓脂肪は糖尿病，脳卒中，心不全，血管病（心筋梗塞，大動脈解離，動脈瘤，末梢動脈疾患）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.